

秋田自動車道

能代南IC

北上JCT

20

周年



撮影地：琴丘森岳IC～八竜IC

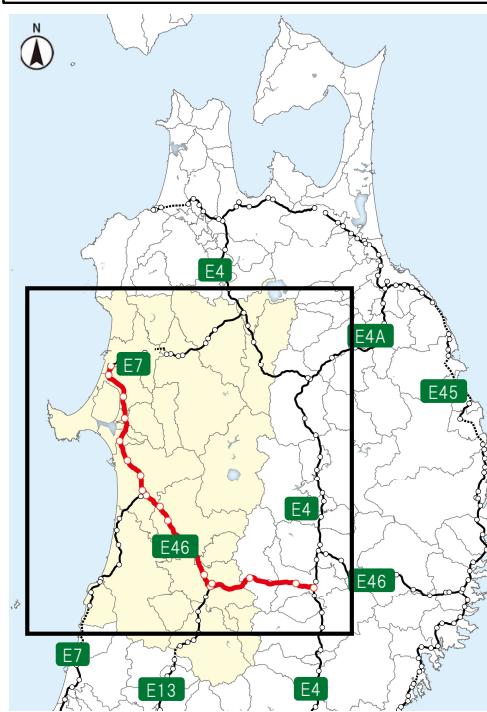
あなたに、ベスト・ウェイ。



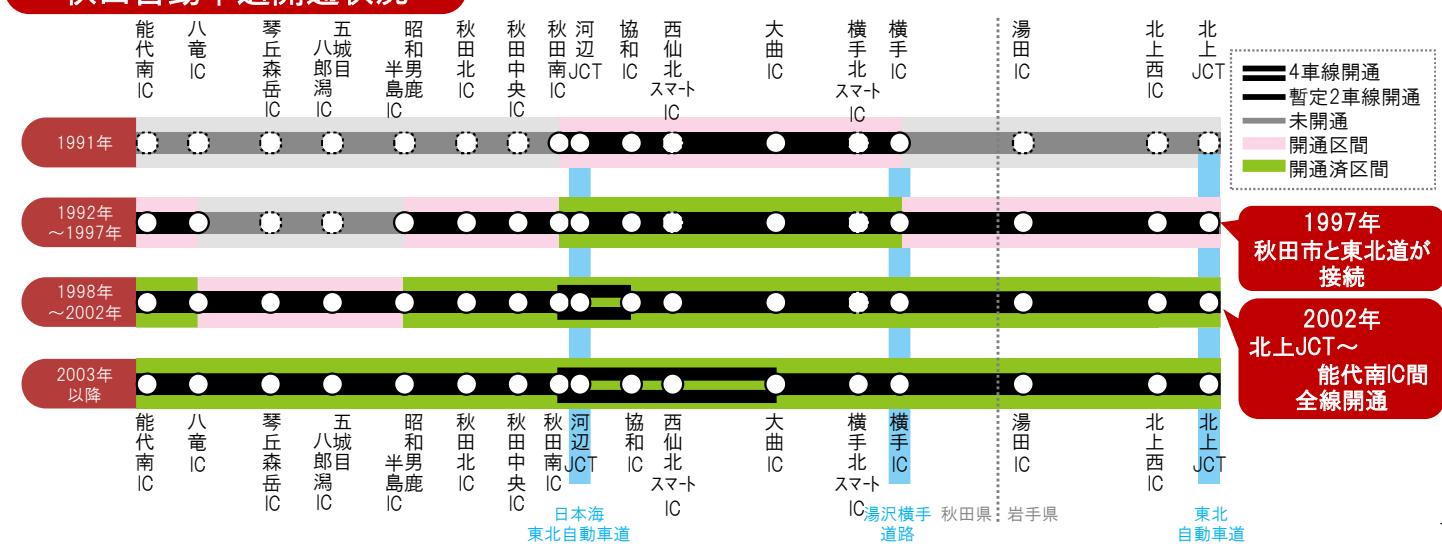
開通20年のあゆみ

秋田自動車道(北上JCT～能代南IC)は、**2002年9月**に全線開通しました。東北自動車道、東北中央自動車道、日本海東北自動車道と接続し、重要な道路ネットワークを形成しています。

路線名:秋田自動車道
区間:北上JCT～能代南IC
起終点:自)岩手県北上市 至)秋田県能代市
通過市町村:6市5町
岩手県:北上市、西和賀町
秋田県:横手市、大仙市、秋田市、湯上市、井川町、五城目町、八郎潟町、三種町、能代市



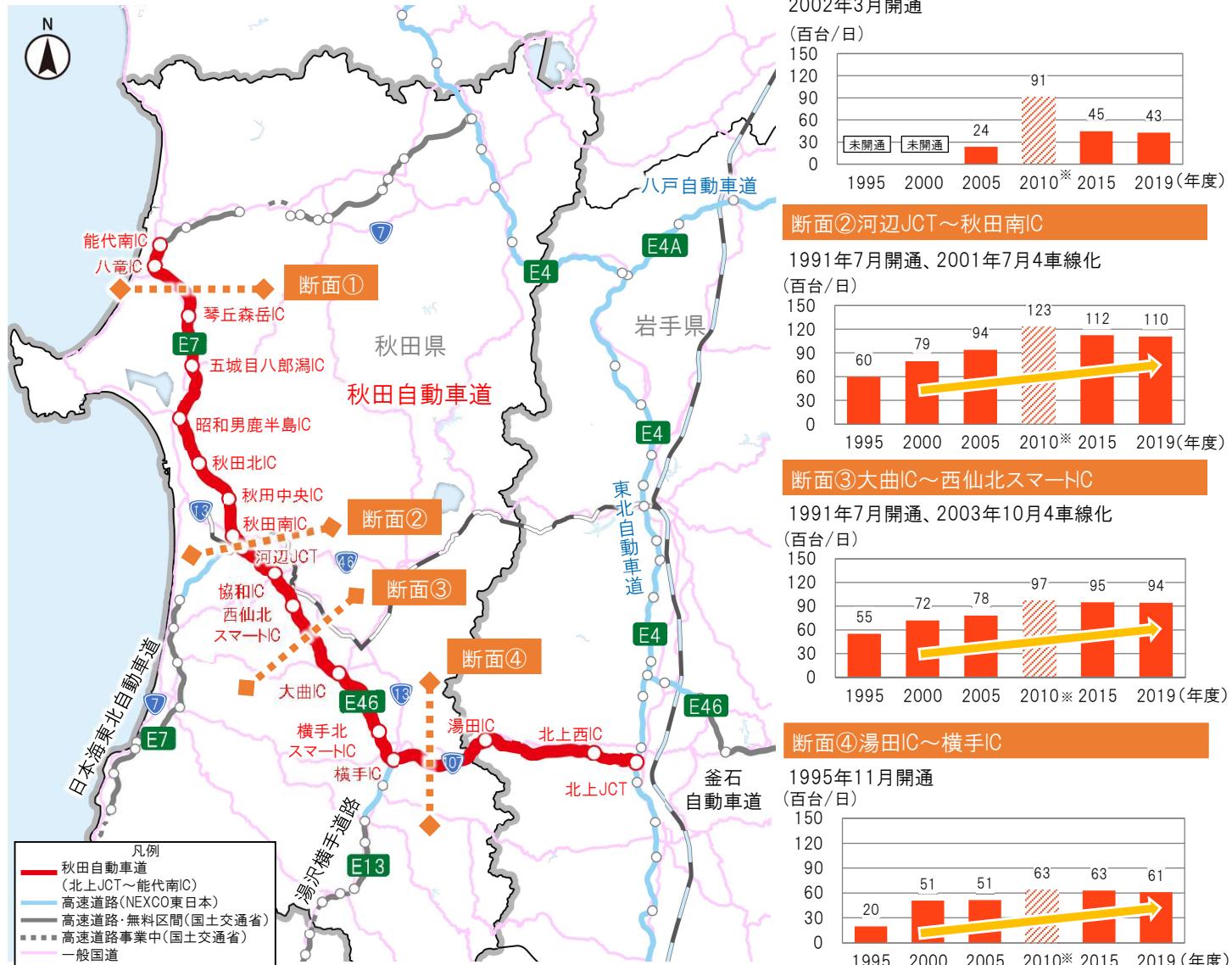
秋田自動車道開通状況



秋田自動車道の開通と交通量

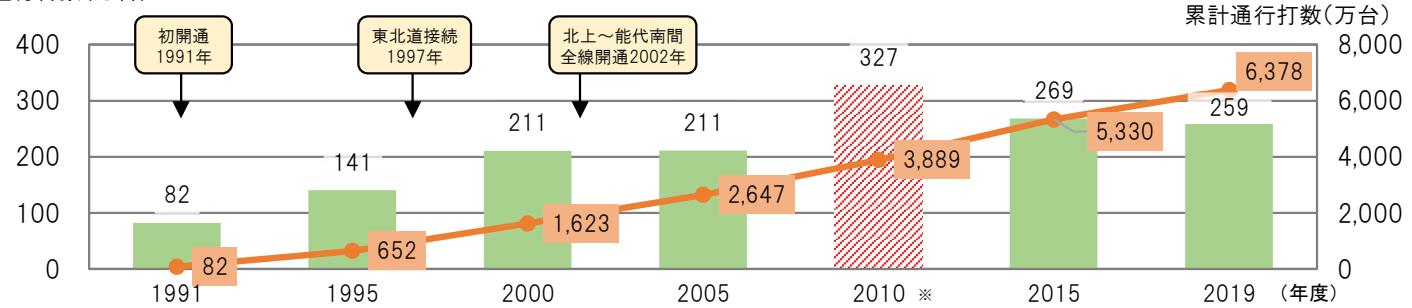
秋田自動車道の累計交通量は約6,400万台となり、
多くのお客さまにご利用いただいています。

■ 主要断面の交通量の推移



■秋田自動車道の通行台数の経年推移

北上JCT～能代南IC間の走行台キロを開通延長で除して集計
通行台数(万台)



※2010年6月28日～2011年6月20日 高速道路の無料化
社会実験を実施(秋田道は秋田中央IC～ハラIC間が対象)
出典:NEXCO東日本調べ

出典:NEXCO東日本調べ

出典:NEXCO東日本調べ

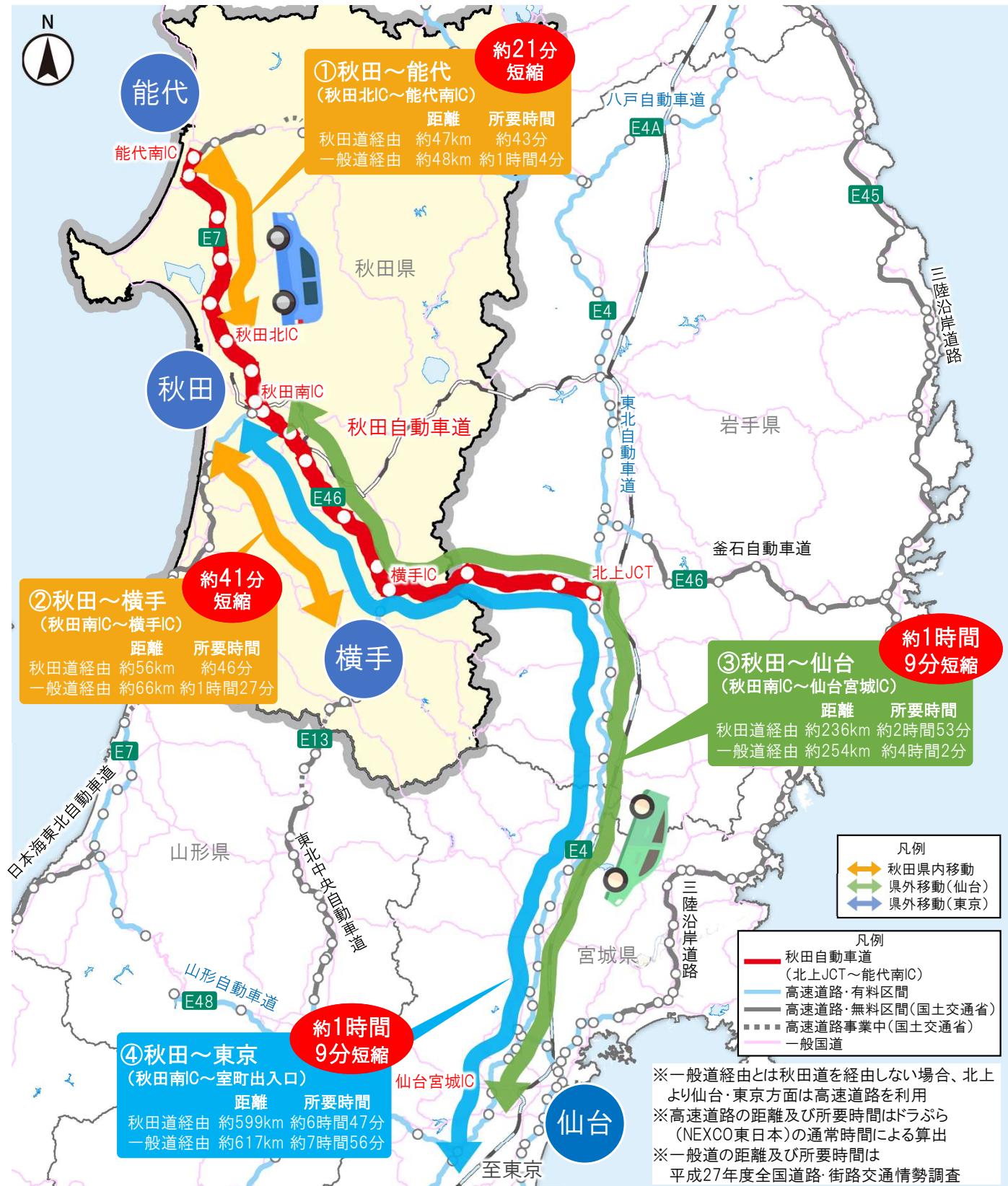
※2010年6月28日～2011年6月20日 高速道路の無料化社会実験を実施(秋田道は秋田中央IC～八竜IC間が対象)

出典:NEXCO東日本調べ

秋田自動車道を使用した都市間所要時間

秋田自動車道の開通により、県内外の主要都市へのアクセスが便利になりました。

■秋田自動車道を利用した場合の所要時間

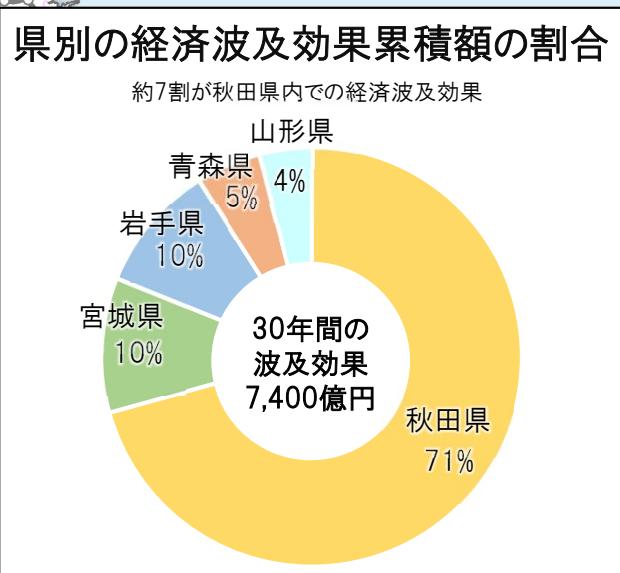
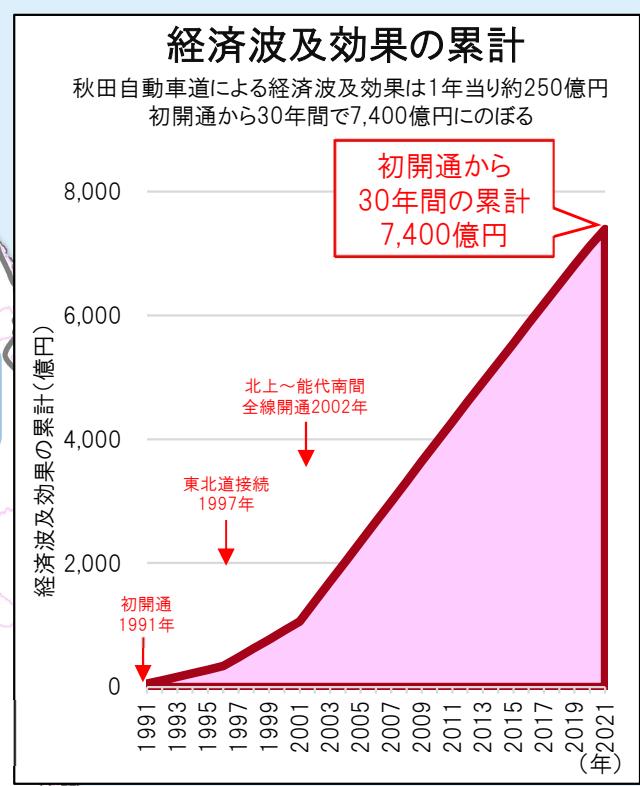


秋田自動車道の整備による経済波及効果

秋田自動車道の整備により、移動時間が短縮することで生産性や消費が向上するなど、経済成長を下支え。

経済波及効果は初開通から30年間で約7,400億円に！

■秋田自動車道の整備による経済波及効果



※地域計量経済分析モデルは、「一般社団法人 秋田経済研究所」の協力のもと、秋田自動車道(北上JCT～能代南IC)あり/なしの場合のGRP(秋田県、青森県、岩手県、宮城県、山形県の総生産)の差を算出し、累積した結果を経済波及効果として計測。

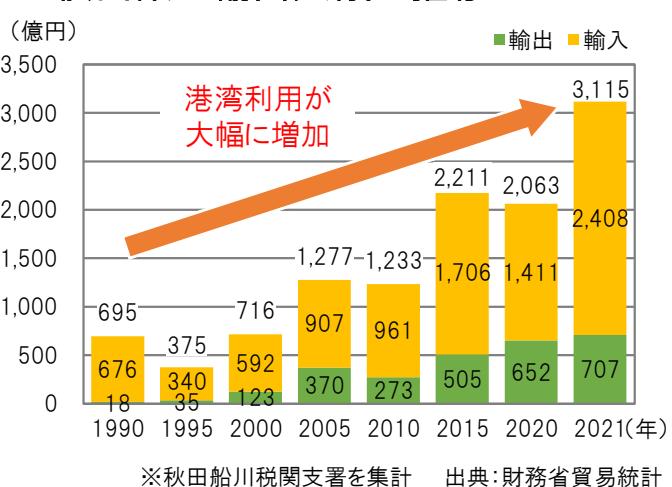
港湾へのアクセス向上

秋田港は、2011年に日本海側拠点港（国際海上コンテナ）に選定され、北東北で最大の便数を誇る国際コンテナ定期航路があります。秋田港の利用の高まりとともに、**秋田港へのアクセス向上が港湾物流の効率化を支援しています。**

■工業団地（生産拠点）と港湾を結ぶ秋田道

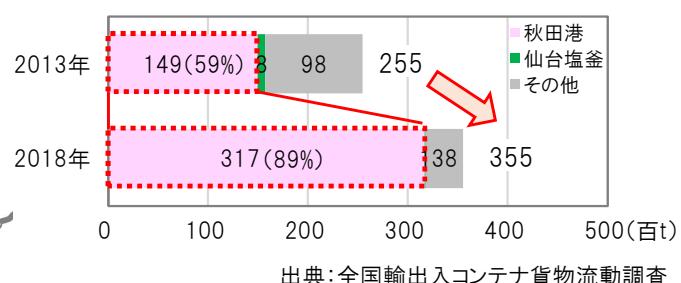


■秋田県の輸出入額の推移



■秋田県を生産地とした貨物の船積港

貨物量が約1.4倍に増加し、秋田港は、秋田県産品を運ぶ上で重要な存在に



《物流会社の声》



秋田港から北上へ海上コンテナを運んでいます。秋田道を使用することで、輸送の効率化が図られています。

出典:2022年ヒアリング調査

TOPICS 秋田港に国際貨物定期航路が整備



秋田港は、2011年11月に東北・北海道では唯一、国際コンテナ分野の日本海拠点港として選定され、また、新国際コンテナターミナルも整備し、年間100,000TEUを取扱うことが可能となりました。

韓国（釜山）航路が週5便出港し、青島や大連、天津まで延伸されています。

LCLサービス（小口混載貨物輸送）により全世界へ向けた輸送サービスが可能であり、利便性が飛躍的に向上しています。

写真提供:秋田県

秋田県をまたぐ交流の活性化

都市間バスが秋田自動車道を利用することで、秋田～仙台間の所要時間が約1時間15分短縮しました。また、1996年と比べて運行本数が増加したほか、新規路線開設にも寄与しています。

■秋田自動車道を利用する都市間バス



《利用者の声》



秋田自動車道の開通で、栃木から秋田の様々な温泉に行くようになりました。高速だと早く着いて観光地での滞在時間が増えて楽しくなりました！

(70代男性) 出典: 2022年アンケート調査

《バス会社の声》



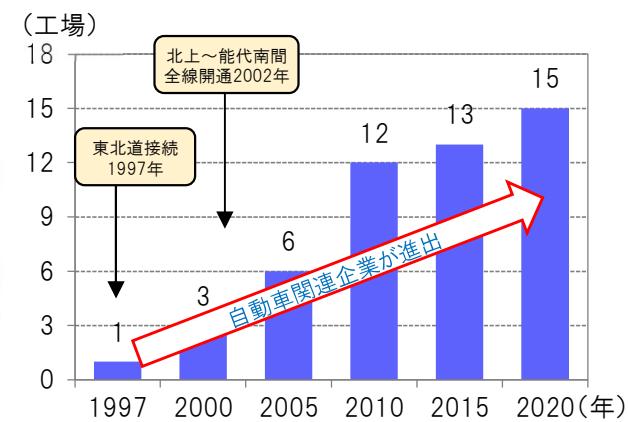
秋田自動車道の整備により、秋田～東京間では途中を経由する系統と直行する系統を開設したことがあり、運行の幅が広まりました。

出典: 2022年ヒアリング調査

秋田自動車道沿線に企業立地が進む

秋田自動車道を活かした輸送効率化により、横手市では企業の立地が進展。特に自動車関連企業の進出が増加。今後も企業誘致や操業が予定され、地域振興への寄与が期待されます。

■横手市の工業団地と輸送

■秋田県の企業立地
(輸送用機械企業立地の累計)

※1997年以降の輸送用機械企業の立地の累計を整理
出典:工場立地動向調査

《横手第二工業団地における
主な自動車関連企業の進出状況》

- ・**大橋鉄工秋田(株)** (2017.2.23竣工)
※1次サプライヤー 主な製造部品:パーキングロッド
- ・**秋田化学工業(株)** (2019.3.9竣工)
県内初となる「防さび電着塗装工場」を建設
- ・**(株)アスター** (2019.6.11竣工)
主な製造部品:高効率モーターコイル
- ・**イイダ産業(株)[オロテックス秋田(株)]** (2019.10着工 2020.7.3操業)※1次サプライヤー
主な製造部品:防音材、制振材
- ・**イリソ電子工業(株)** (2025年操業予定)
主な製造部品:モバイル、AV機器などのコネクタ



出典:イリソ電子工業(株)ウェブサイト



出典:秋田県HP、秋田自動車道4車線化促進要望書(R2.11.13)、
航空写真はGEOSPACE CDS(NTTインフラネット(株))

出典:横手市資料(工業団地のご案内)

《沿線企業の声》



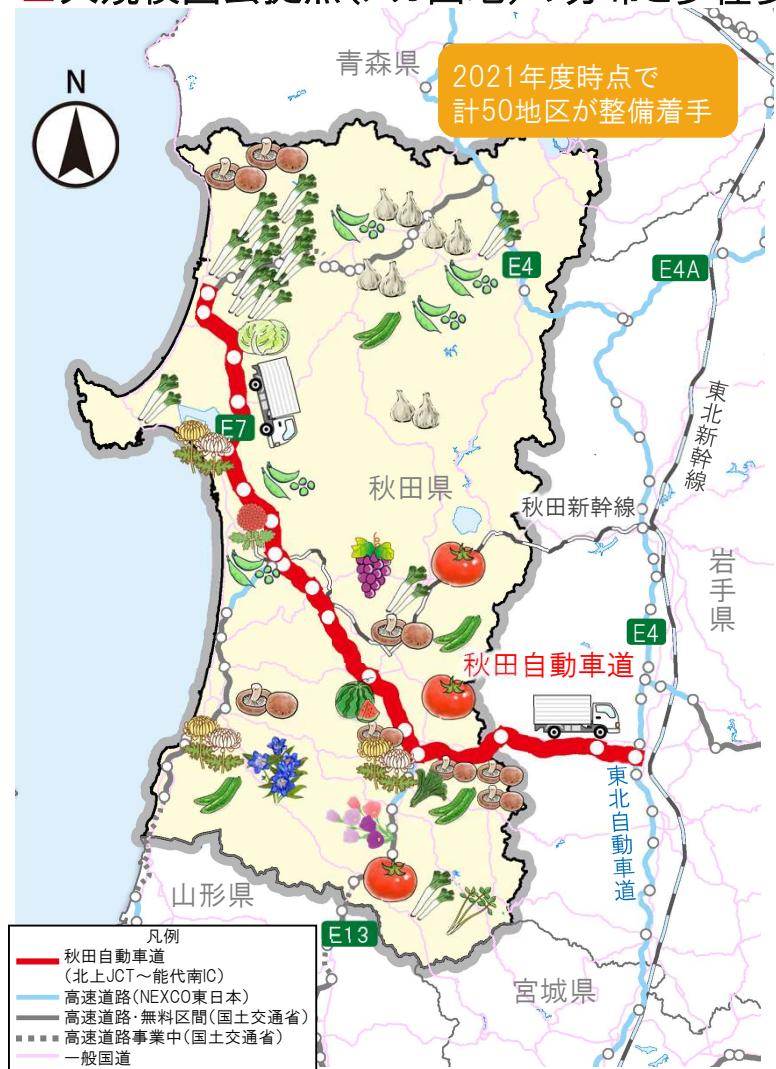
弊社が秋田自動車道を利用する用途は、自動車部品の輸送であり、埼玉・神奈川方面へ毎日13tトラック1台ずつの頻度です。また仙台港・東京港・横浜港から北米方面へ輸出する際にも利用しています。秋田自動車道があることで安定した輸送が可能となっています。

出典:2022年ヒアリング調査

園芸品目の生産拡大を支援

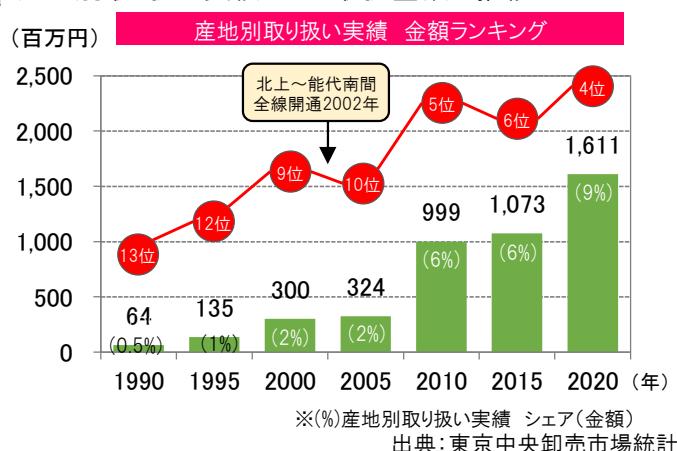
秋田県内では、秋田自動車道沿線を中心に大規模園芸拠点の整備が進行。多種多様な栽培作物のうち、ねぎ・生しいたけは東京市場取扱金額が年々上昇し、**生産拡大に貢献**しています。

■大規模園芸拠点(メガ団地)の分布と多種多様な農産物



《ねぎ・生しいたけの全国シェアが拡大》

産地別取り扱い実績 ねぎ取扱金額の推移



産地別取り扱い実績 生しいたけ取扱金額の推移

産地別取り扱い実績 金額ランキング



《大規模園芸拠点(メガ団地)の整備》

ねぎ・生しいたけ等の園芸品目の飛躍的な拡大により、複合型生産構造への転換を加速させるため、秋田県では園芸振興をリードする大規模園芸拠点の全県展開に向けた整備を支援。2021年度末までに計50地区を整備。ねぎは能代市周辺、生しいたけは横手市周辺に重点的に整備。

※メガ団地とは、1団地あたり販売額1億円以上を目指す団地



写真提供:秋田県

《農業協同組合の声》



「白神ねぎ」は当農業協同組合と能代市・藤里町においてブランド化を進めており、特産品として主に関東圏に出荷しています。秋田自動車道が開通したことにより、関東圏への物量も増え、西は名古屋、北は北海道まで出荷の範囲が広がりました。

秋田自動車道と園芸メガ団地が整備されたおかげで、2015年度から販売額が10億円を突破しました。2022年度はさらに拡大を目指しています！

出典:2022年ヒアリング調査

「食の宝庫あきた」の農産品を全国へ

秋田自動車道の整備により、迅速かつ安定した出荷が可能となり、様々な秋田県産品の食材が全国の食卓へ。
ラズベリー(きいちご)栽培は販路が拡大し、出荷量全国1位に。

■ 多種多様な秋田県の農産品



《ラズベリーの出荷量(2019年)》

※秋田県内の主な産地
五城目町、大館市、仙北市



出典:特産果樹生産動態等調査

《五城目町キイチゴ研究会の声》



五城目のラズベリーは、気候が適していることから、2008年に秋田県立大学と共同研究で栽培を開始しました。ラズベリーは、消費期限

が3日ほどで、生食は流通が少ないので、秋田自動車道のおかげで、鮮度を維持したまま生食用に関東方面へ輸送が可能となっています。輸送先は、関東の有名洋菓子店や百貨店があり、お店の方やお客様から「品質が良く、おいしい」と評判です。

出典:2022年ヒアリング調査

「五城目町キイチゴ」パンフレット

生鮮ラズベリーは消費期限が短い



FRESH 生鮮果実の販売

消費期限 3日

- 1 果肉は繊細で傷みやすいため、雨よけハウス施設内で栽培しています。
- 2 収穫は、ラズベリー固有の特徴を発揮した果実を厳選するため、次の基準で判断して丁寧に収穫しています。
・ラズベリー専用果実カラーチャートを基準とした適期収穫。
・汚れや傷が無く、形が整ったもの。
- 3 収穫後、選果・荷造場で果実を再度検品し、ラズベリー用に開発された荷傷み防止専用パック(秋田県立大開発)に詰めて、クール便で発送します。

出典:五城目町キイチゴ研究会

《神奈川県の有名洋菓子店の声》



五城目の生産者からのPRにより、5~6年前から「五城目タルト」として販売していました。生鮮のキイチゴは大変珍しく、味がしっかりしていて美味しいため、お客様からも好評でした。

出典:2022年ヒアリング調査

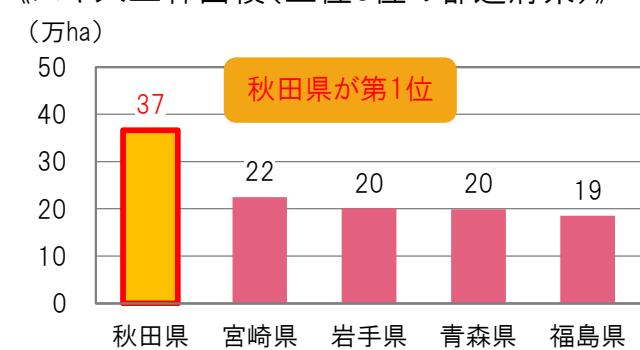
秋田県産木材の流通を支援

秋田県はスギ人工林面積が全国1位。**木材需要が高まるなか、輸送に秋田自動車道を利用することで、安定供給に貢献しています。**

■秋田県産原木を加工した木材製品の輸送



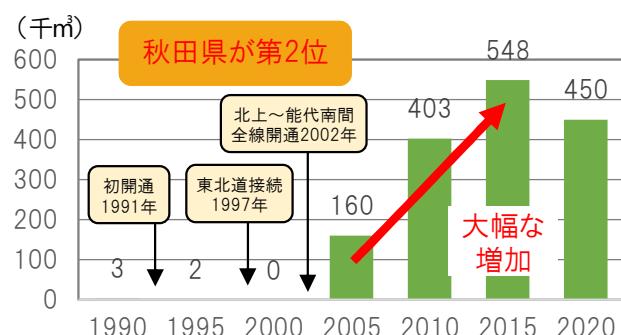
《スギ人工林面積(上位5位の都道府県)》



《スギ素材生産量(上位5位の都道府県)》



《秋田県の合板生産量》



《木材製品を運送する企業の声》



弊社では、能代市内で加工した木材製品を埼玉県秩父市や東京都江東区へ合計10トン、週2~3日程度輸送しています。納入先での配達の都合や、帰り荷に間に合わせるため、朝8時に納品する必要があります。秋田自動車道があることで、納入先への到着時間の遅れが少なくなりました。特に冬期では遅れが発生しやすかったのですが、年間を通して安定的な搬送が可能となりました。

出典: 2022年ヒアリング調査

物流を支える重要な道路

秋田自動車道が全国の高速道路ネットワークと接続することにより、**輸送効率が向上**し、納品までの時間を短縮。秋田県産品を国内外へ輸送が可能になるなど、重要な役割を担っています。

■秋田自動車道を利用した輸送



《北上金ヶ崎IC付近に立地する大規模倉庫》

近年、輸送効率化を実現するため、秋田自動車道と東北自動車道が分岐する最寄りのICで物流倉庫が多数立地。全国の物資が集結するなか、秋田県内を中心とした物流は秋田自動車道が利用され、各地へ輸送することを実現。

DPL岩手北上Ⅲ(2021年9月竣工)



DPL岩手金ヶ崎(2022年9月竣工予定)



出典:大和ハウス工業株式会社

《秋田県・ヤマト運輸・ANA Cargoの連携協定》

2016年3月、三者が「県産品の国内外への販路拡大に向けた連携協定を締結。

それぞれが有する資源やノウハウを有効活用することにより、県産品を関東や西日本の大消費地へは翌日午前中に、海外へは東アジアへ最短翌日にお届けするなど、県内事業者の販路拡大に向け、連携した取り組みを実施。



出典:秋田県、ヤマト運輸(株)、ANACargoプレスリース(2016年3月)

《運送会社の声》



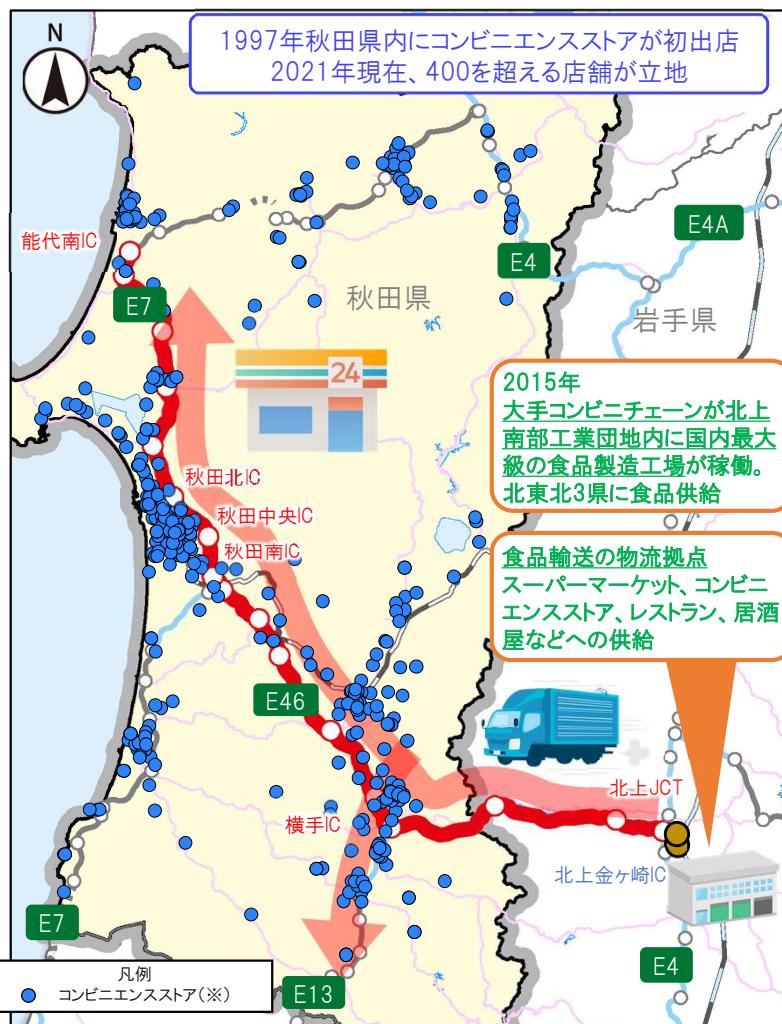
秋田自動車道のおかげで、秋田発の産直品などを国内主要都市に時間短縮をしてお届けできることが可能となりました。また、秋田県内での当日輸送など、付加価値を生み出しています。

出典:2022年ヒアリング調査

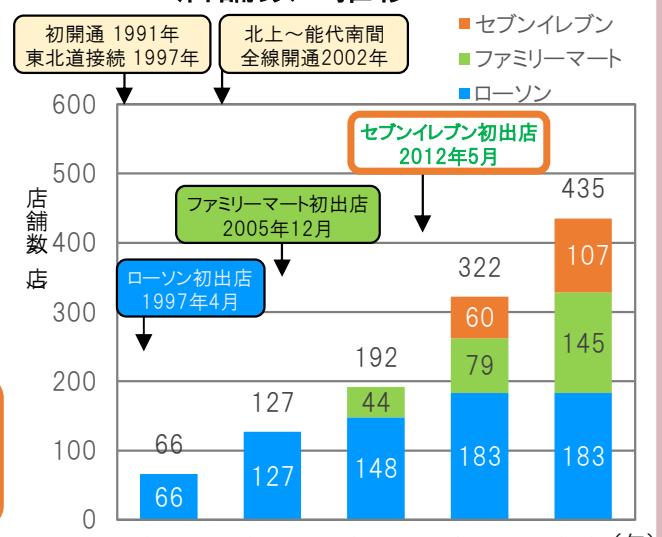
商業施設への立地を促進

秋田自動車道開通以降、秋田県内に多くのコンビニやファミリーレストランが出店しました。工場からの配送に秋田自動車道が利用され、商業施設への商品供給を実現しています。

■開通以降にコンビニの出店が加速



■コンビニ店舗数の推移



※セブンイレブン、ファミリーマート、ローソンの店舗数
(各年3月末時点) 出典:月刊コンビニ商業界

《コンビニ運営会社の声》

秋田県の出店は、物流を考慮し、県南の横手市よりスタートしております。
秋田県内への出店・配送を想定し、高速道路等の交通網を考慮して、岩手
県北上市に工場を建設しました。

出店地域のお客様からは喜ばれる
ケースが増えてきています。

出典:2022年ヒアリング調査

■ファミリーレストランチェーンが秋田に進出



サイゼリヤ イオンモール秋田店
(秋田県1号店)



ミラノ風ドリア



マルゲリータピザ

秋田県の観光・イベントを支える

秋田県には多くの観光施設・イベントを有し、年間で延べ3,500万人の来訪があります。秋田自動車道は、東北各地や関東方面からのアクセス向上に重要な役割を果たしています。

秋田県内の主な観光施設・イベント



《「大曲の花火」実行委員長 大曲商工会議所 会頭 齋藤 靖さん》



「大曲の花火」は県内県外から例年75万人(令和元年度実績)の方が来場する県内でも有数の大規模イベントです。花火大会当日は東北の各県や首都圏から多くの方が来訪されますが、車で来訪される方の多くは高速道路を利用して大曲までお越しいただいており、秋田自動車道は重要なアクセスルートとなっています。大曲にとって花火は、観光以外の産業にも大きな影響を与え、地域経済振興の源泉のひとつとして欠かせない要素となっており、秋田自動車道によるアクセス性の向上が地域の経済にも良い影響をもたらしていると考えています。

救急医療活動を支援

秋田自動車道の開通により、救急搬送時間が短縮し、**第三次救急医療機関までのカバー圏域が拡大**。太平山PAの救急車退出路設置やドクターカーの運用により、沿線地域の救急医療活動が改善しています。

■秋田道によって第三次救急医療施設までのカバー圏域が拡大



《秋田道に設置された救急車退出路》

太平山PA(上り線)に2009年3月開通

※救急車退出路:道路建設時に設置した工事用進入路等を活用したもので、救急車などの緊急車両が通行できるように設置し、一般車両は通行できない



画像出典:各病院のHP又はパンフレット

■秋田道を利用したドクターカー運用

秋田大学医学部付属病院では、2021年10月4日からドクターカー事業を開始。ドクターカーと救急隊との合流場所(ランデブーポイント)は、主に高速道路出入口付近の駐車場及びコンビニ駐車場を想定。ドクターカーと救急車が連携し、医師・看護師による傷病者の早期治療、救命が可能に。



《湖東地区消防本部の声》

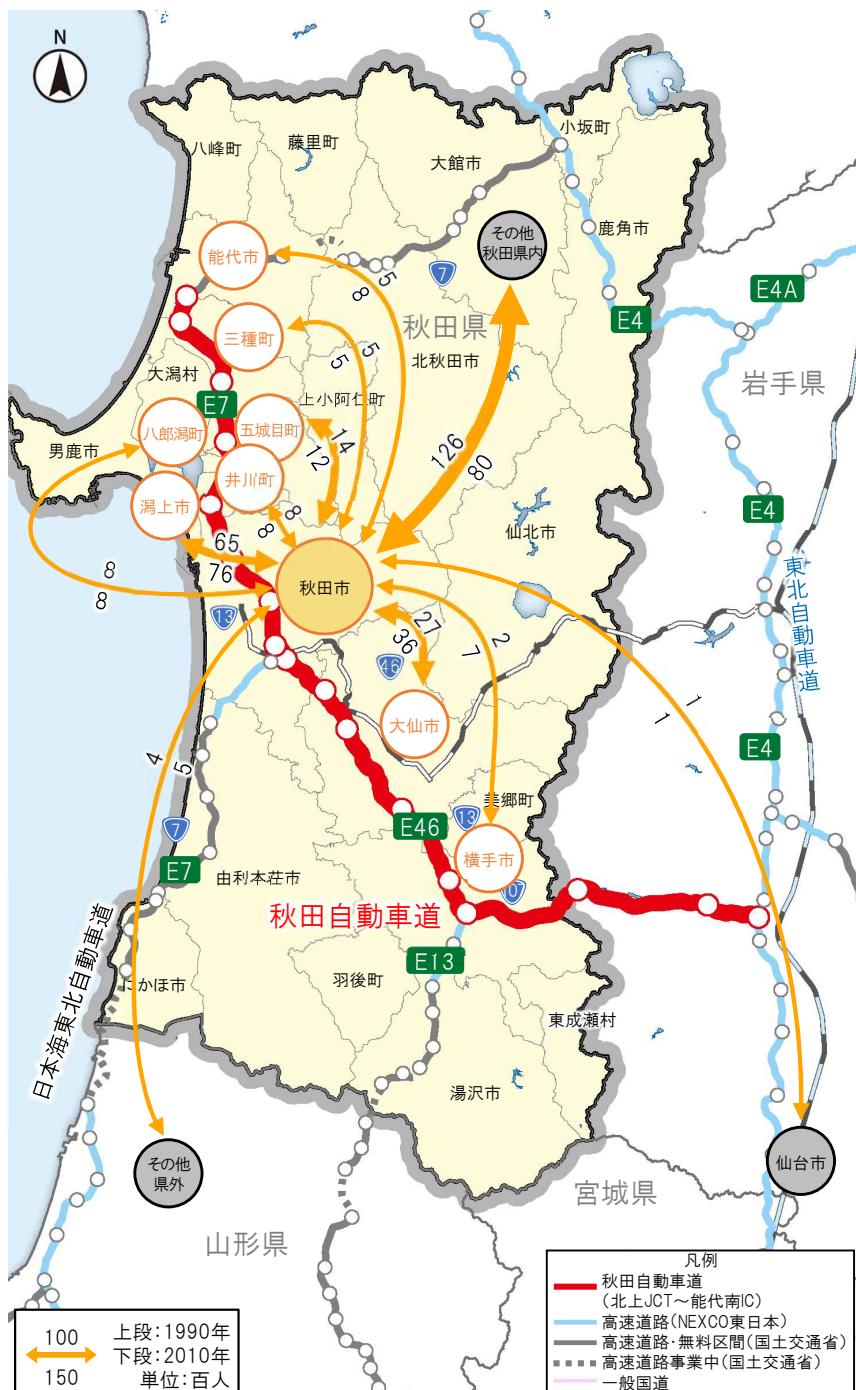
管内(潟上市、井川町、八郎潟町)に三次救急医療機関がないため、**救急搬送の9割以上は秋田道を利用**しており、秋田市内の病院へ搬送しています。また、ドクターカーと秋田北ICで待ち合わせ、医師による早期治療が可能になりました。秋田道開通によって、地域住民の救命率向上に確実に繋がっています。

出典:2022年ヒアリング調査

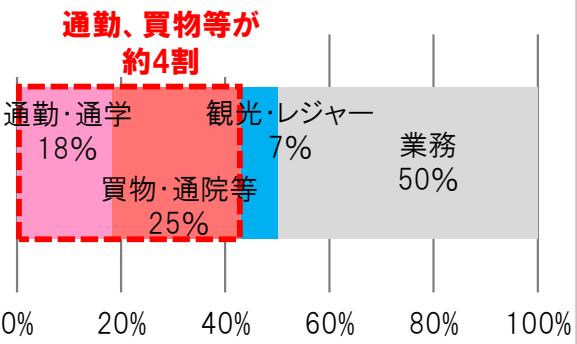
地域住民の生活に欠かせない秋田自動車道

秋田自動車道は通勤・通学、買物等で利用されることが多く、
沿線住民の日常生活を支えています。

■秋田市の通勤通学流動(自動車)

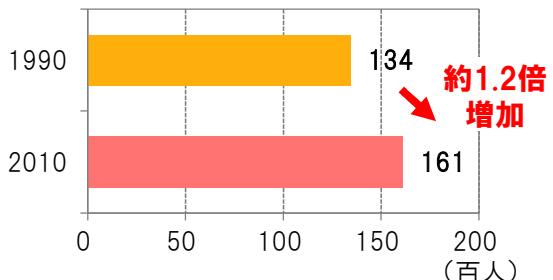


■秋田道の利用目的

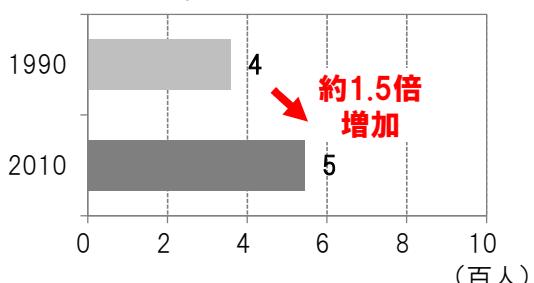


■秋田市の通勤通学流動(自動車)

《秋田市⇒秋田道沿線市町》



《秋田市⇒県外》



※沿線市町とは能代市、横手市、潟上市、大仙市、三種町、五城目町、八郎潟町、井川町の合計

※利用交通手段の自動車に関する流動を集計
(乗合バス/自家用バス/自家用車/タクシー・ハイヤー/
オートバイ)

出典: 国勢調査

《利用者の声》



私は、総合病院に医師として勤務しており、自宅は秋田市にあって能代市へ単身赴任しています。自宅へ帰る際には秋田自動車道を必ず利用しており、特に冬道では時間通り着くので必ず利用します。もし、秋田自動車道がなかったら、運転時間が長くなってしまって自宅へ帰るの回数が減っていたと思います。

(40代男性)

出典: 2022年アンケート調査

安全・安心・快適な交通環境を創出

開通後、並行する国道の交通量が**秋田自動車道へ転換**しました。秋田自動車道は、国道よりkm当りの死傷事故件数が低く、**安全・安心な交通環境の創出に寄与**しています。

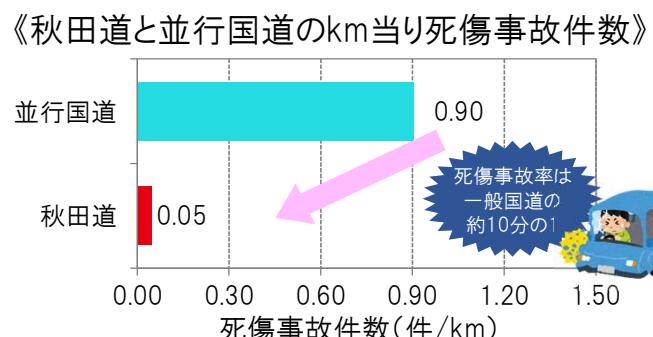
■秋田自動車道と並行国道の交通環境



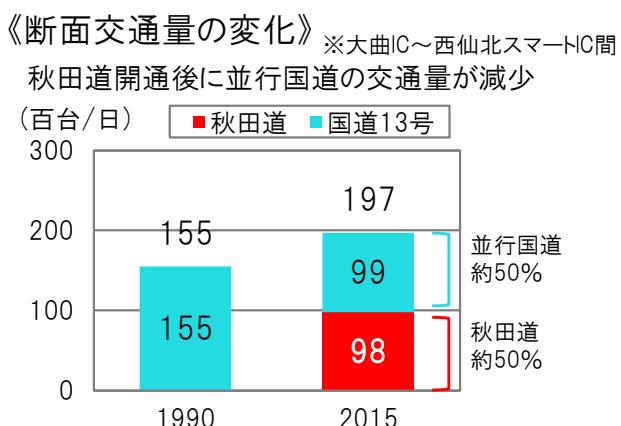
出典:高速道路の正面衝突事故防止対策に関する技術検討委員会資料(国土交通省)

※死傷事故率集計対象区間
並行国道:国道7号、国道13号、国道107号
秋田自動車道:北上JCT~能代南IC

- 秋田自動車道(暫定2車線)
- 秋田自動車道(4車線)
- 秋田自動車道(4車線化事業中)
- 高速道路・有料区間
- 高速道路・無料区間(国土交通省)
- 高速道路事業中(国土交通省)
- 一般国道



※集計区間 児童事故件数(件/年)
秋田道: 北上JCT～能代南IC
並行国道: 秋田道に並行する国道7号、国道13号、国道107号
出典: 警察庁オープンデータ(2019年～2020年)
平成27年度全国道路・街路交通情勢調査



出典:全国道路・街路交通情勢調査

《並行国道の冬期の交通状況》

横手市等の一部地域は特別豪雪地帯に指定。並行国道の一部区間は車道脇にできる雪堤により幅員が減少し、大型車のすれ違いや緊急車両の追い越しが困難となる事案が発生。

出展:秋田県渋滞対策推進協議会資料



冬期の国道13号(横手市内)

《秋田大学 理工学部 システムデザイン工学科 教授 浜岡 秀勝さん》

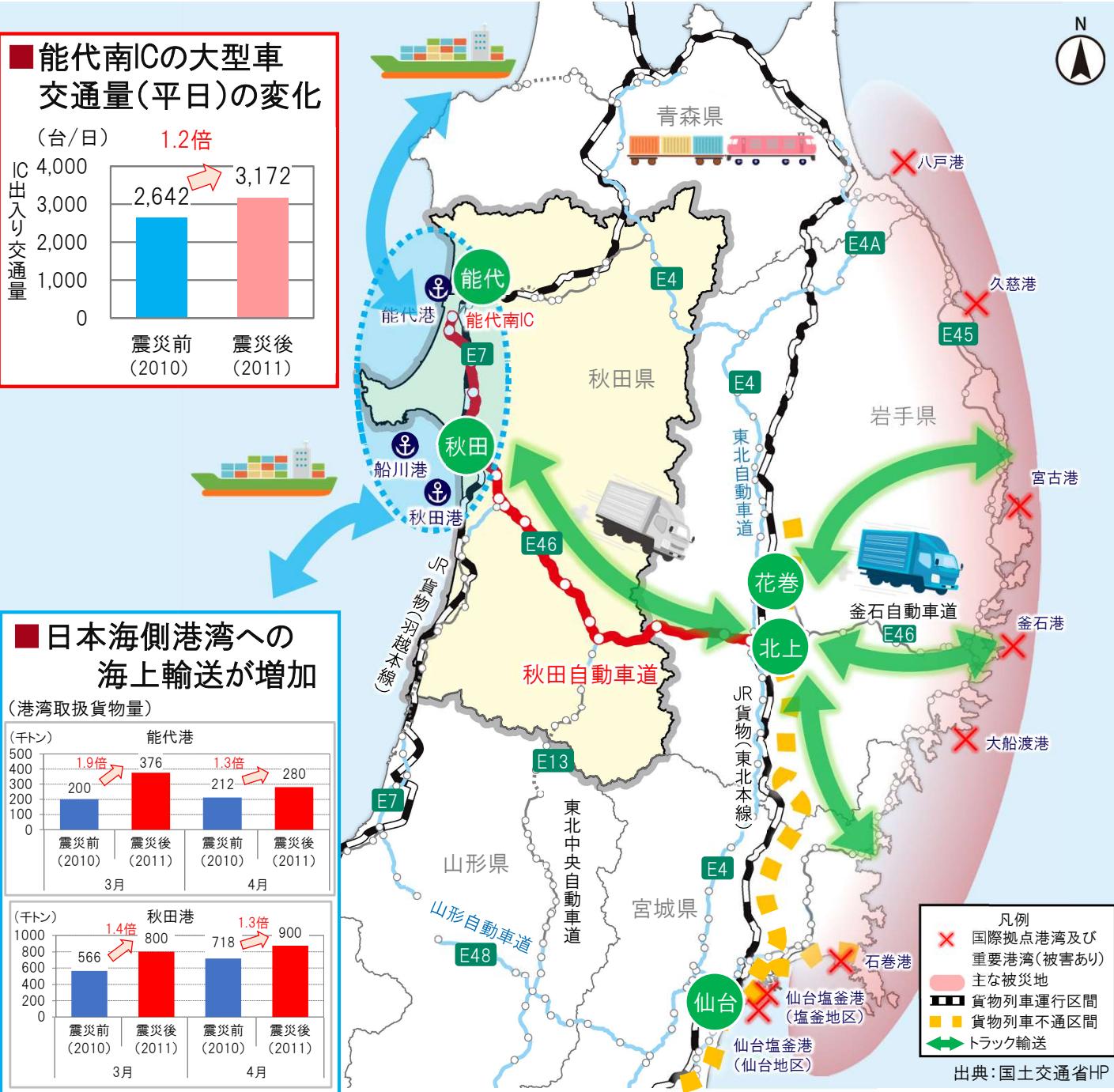


並行する一般道と比べてカーブが緩く、急な勾配もない秋田自動車道は、走行しやすいだけでなく、実施された様々な安全対策が重大事故の発生を未然に防いでいます。例えば、暫定2車線区間に整備されたワイヤロープは、対向車線への飛び出しを防ぐため、重大事故抑止という安全性のみならず、運転者にとって対向車が自車線に飛び出してくる危険性からの解放という安心感も生み出しています。

現在進めている秋田道の4車線化は安全・安心を高めるだけでなく、今後むかえる秋田道の大規模修繕において道路交通への影響を最小限とするメリットがあるため、その実現を期待しています。

災害時のリダンダンシーを確保

東日本大震災発生後、被災した太平洋側の港に代わり、日本海側の港や鉄道から**秋田自動車道を経由したトラック輸送が実施**され、被災地を支援しました。



《運送会社の声》



東日本大震災時には、仙台の油槽所に被害があり輸送できなくなったため、秋田の油槽所から高速道路を使用して被災地へ石油を輸送しました。

出典:2022年ヒアリング調査

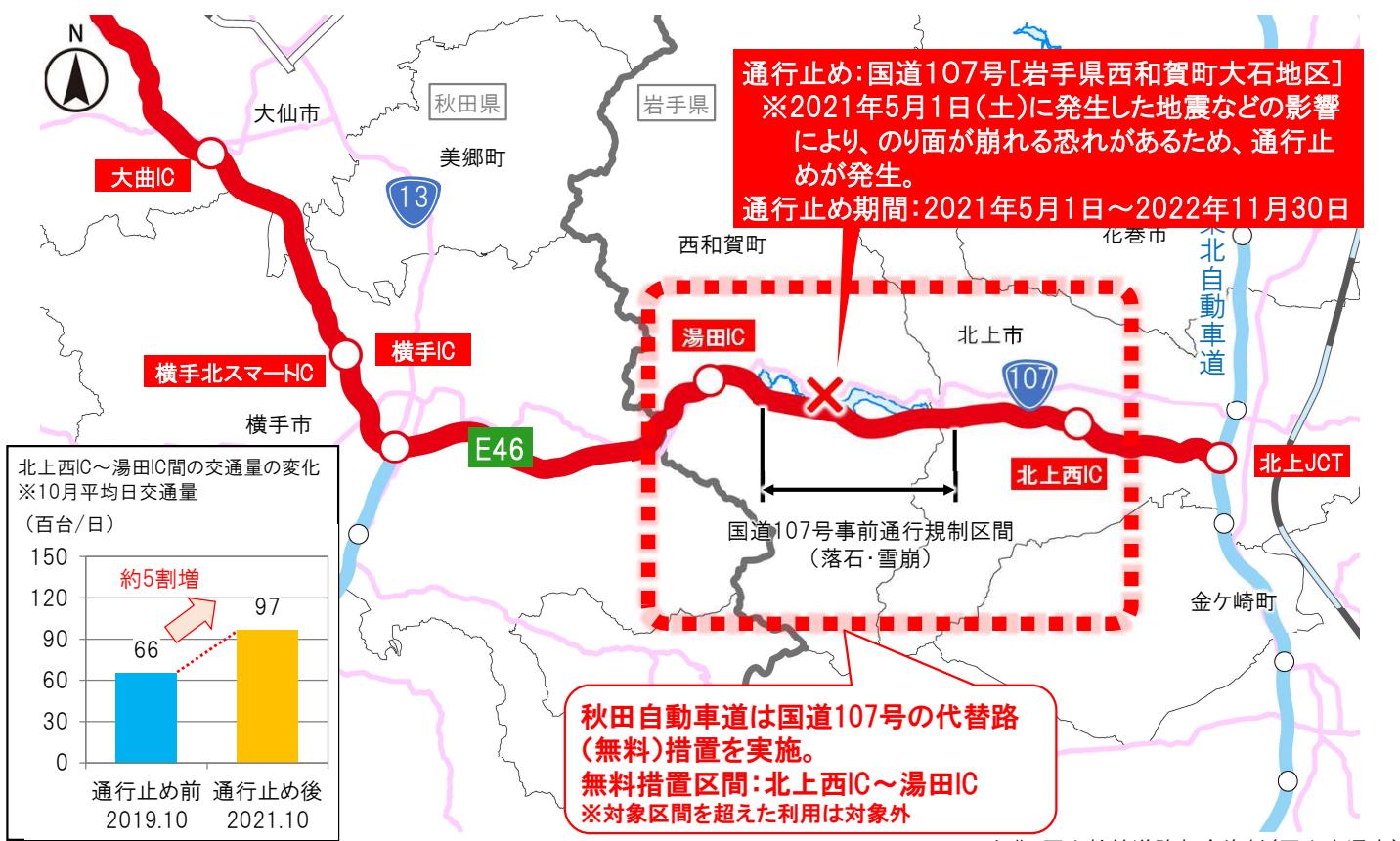
並行する一般道の代替路として機能

秋田自動車道の整備により、地域が寸断されるリスクが減少し、東西交通を支える道路ネットワークの信頼性が向上。

国道107号の通行止め時には、**代替路としての役割**を果たしています。

■ 国道107号での災害通行止め発生時の代替路としての機能

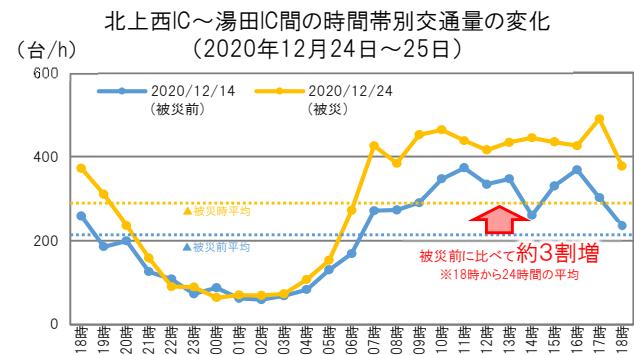
《秋田自動車道(北上西IC～湯田IC)の代替路(無料)措置の実施》



出典: 国土幹線道路部会資料(国土交通省)

《冬期の災害による国道107号通行止め時に代替路として機能》

- 国道107号は北上市～西和賀町間で事前通行規制区間(落石・雪崩)に指定。
- 2020年12月24日(木)には国道107号で雪崩が発生したことにより通行止め。
- 通行止め時間は並行する秋田自動車道の交通量が増加。



出典: NEXCO東日本調べ

秋田自動車道のこれから

秋田自動車道の北上西IC～横手ICでは、**4車線化工事を進めています**。また、開通から20年経過しており、将来的な老朽化や劣化を踏まえ、安全・安心にご利用いただくための機能強化を進めていきます。

■秋田自動車道の4車線化工事



出典：国土幹線道路部会資料(国土交通省)

■高速道路リニューアルプロジェクト(大規模更新・修繕事業)

秋田自動車道は、開通から20年が経過します。今後、経過年数に伴う老朽化に加えて、大型車の通行、凍結防止剤の散布などにより、道路の老朽化が懸念されます。今後、高速道路リニューアルプロジェクトを推進する予定です。

《大規模更新》
高速道路の古い構造物を最新の技術で再施工することにより、現在の新しい構造物と同等またはそれ以上の性能を確保し、機能維持と性能強化を図ります。



《大規模修繕》
高速道路の古い構造物を最新の技術で補修・補強することにより、建設当初と同等またはそれ以上の性能・機能を回復するとともに、長寿命化を図ります。



《消防本部の声》



高速道路が2車線であると、事故発生時に片側交互通行になるほか、救急出動で高速道路上を通行する際に一般車に避けてもらうことが難しいです。円滑に搬送をするためにも、4車線化は進めてもらいたいと思います。

出典：2022年ヒアリング調査